



## ウスバカゲロウはどうやって飼うの

### ウスバカゲロウは短い命

夏の夜、明け明かりの下に飛んでくる小さいトンボのような虫が、ウスバカゲロウです。夜活動し、じゅ命はおよそ1か月くらいで、草のしるなどを吸って生きています。この虫は、飼育ケースの中などで飼うのはむずかしいので、やめたほうがいいでしょう。親とは似ていない、ウスバカゲロウの幼虫である、アリジゴクを探して飼ってみましょう。

神社やお寺の縁の下など、かわいた砂がある所で、すりばちのようにくぼんだ穴を探します。これがアリジゴクの巣です。すりばちのように穴の近くで、アリなどが足をすべらせると、底から砂をかけて穴に落とし、その体のしるを吸います。

### アリジゴクの飼育方法

飼育ケースの中に、ふるいにかけて目の細かいサラサラした砂を、5～10センチメートルの深さで入れ、網などでふたをしておきます。えさには、2～3日に1回、羽をむしったハエや、カ、アリなどを穴に落としてやります。アリジゴクの時期は2～3年もあるので、さなぎになるのを見るのはむずかしいかもしれません。時期がきて6月末ごろになると、すりばちの穴が浅くなり、1.5センチメートルぐらいの砂の球の中で、さなぎになります。およそ2週間で、羽化してウスバカゲロウが出てきます。（監修・中山 周平）

